令和５年１０月吉日

各　　　　　位

一般社団法人松戸市医師会

会長　川越　正平

令和５年度 多分野合同研修会への職員出席のお願い（依頼）

時下、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

松戸市医師会は、松戸市から在宅医療・介護連携推進事業、重層的支援体制整備事業の一部委託を受け、アウトリーチ等を含む相談支援業務を全世代に対して行っています。受け止めた相談事例を分析しますと、複数の領域の課題を抱えている事例、同一世帯に支援を必要としている家族等がいる事例が増加しています。これらの事例に対応するには、「その人の生活を支えるために何が必要か」という視点に立ち、医療・介護・福祉・行政の支援者がともに事例を検討し、支援方針をすり合わせ、それぞれの役割を明瞭にすることが重要だという事例経験を重ねています。そのための第一歩として、多分野の支援者が一同に会し事例検討を行う研修会を企画いたしました。

つきましては、皆様のご出席について、ご高配を賜りたくお願い申し上げます。

記

1．開催期日：　令和５年11月22日(水)　午後1時30分から午後4時

２．場　　所　：　松戸市衛生会館3階大会議室（松戸市竹ヶ花45-53）

３．内　　容　：　障害分野における支援困難事例への対応力向上を目指して

|  |  |
| --- | --- |
| 形式 | 内容 |
| 講演松戸市医師会会長　川越正平 | **◎相談支援における医療的視点と医療との付き合い方**医療の視点から、支援対象者に初めて接した段階からの観察ポイント、情報収集の方法、さらには、緊急性や深刻度の見極め方をご説明します。併せて、敷居が高いと思われがちな医療との付き合い方のポイントをご紹介します。 |
| 事例検討（グループワーク）あおぞら診療所医師　住谷智恵子 | **◎医療中断している支援困難事例への介入**支援を困難かつ、長期化させる要因として、未受診、医療中断があります。一方、関係性が壊れることを懸念して、介入や医療への接続を躊躇してしまうこともあります。このような事例に遭遇した初期段階での介入及び支援方法について事例検討を行います。 |
| 講演ほしの在宅ケアクリニック院長　星野大和 | **◎在宅医療・介護連携支援センターの機能と活用のポイント**当センターには、医師、看護職、ケアマネジャー等の多職種を配置し、アウトリーチや専門サポート医（精神科）による相談等を通じ、支援者の後方支援を行っています。センターの機能と活用のポイントをご説明します。 |

4．対象者：子ども・障害・高齢者・経済困窮等の支援者もしくは、子育て・福祉・介護・医療・保健等の専門職

5．申込方法　：右QRコードをスマートフォン等で読み取り申込フォームよりご登録頂くか、松戸市在宅医療・介護連携支援センターのホームページからお申込み下さい。（https://matsudo-zaitaku.org/）

６．備　　考：携帯会社のキャリアメール（@docomo.ne.jp等）には、当方からの返信メールが届かない場合があります。必ず（@matsudo-zaitaku.org）からのメールを受信できるように設定してください。

【お問合せ先】一般社団法人松戸市医師会

松戸市在宅医療・介護連携支援センター　担当：上原・井上

電話番号：047-701-7533

E-mail：info@matsudo-zaitaku.org